

平成27年度継続課題に係る継続評価書

研究機関	:(株)日立製作所、東京大学、KDDI(株)、(株)KDDI研究所
研究開発課題	:G空間プラットフォームにおけるリアルタイム情報の利活用技術に関する研究開発
研究開発期間	:平成26年度～平成27年度
代表研究責任者	:(株)日立製作所 社会イノベーション・プロジェクト本部 ソリューション・ビジネス推進本部 社会ソリューション本部 部長 菅原 敏

■ 総合評価 : 適(適/条件付き適/不適の3段階評価)

(評価点 19点/25点中)

(総論)

計画よりも先行して研究が進捗しており、目標性能を達成できる見込みである。また、政策目標である災害対策への適用を想定した研究開発が実施できるよう、外部研究者との連携に向けた準備が来ている。

(コメント)

- 目標性能を達成できる見込みである。
- 目的とする災害対策への適用を想定した研究開発を実施できるように、外部研究者との連携も準備している。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予定通りの研究開発目標を達成し計画通りの成果が得られている。加えて一部予定より先行して研究課題が達成され、研究成果が OGC において標準化されるなど、進歩的な成果が認められる。一方、G 空間プラットフォームとの連携や分散型システムに関する検討について、さらなる成果を期待する。

(コメント)

- ほぼ予定通りの当該研究計画目標を達成しており、加えて予定より先行して達成した研究もあるので、計画通りの成果が得られていると判断される。
- 本研究の成果が OGC の標準化されることは、特筆に値する。
- G 空間プラットフォームとの連携については、さらに具体的な進捗が欲しかった。
- 分散型システムに関する検討は要求条件レベルで分析し、検討する必要がある。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予算計画の中で、一部予定より先行して研究目標を達成した課題も見受けられ、研究資金が有効に執行されていると推察される。

(コメント)

- 予定の当該研究目標を達成しており、研究資金は有効に使われたと推察される。
- 一部の課題において、単年度費用で完了させた。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

全体スケジュールは、一部予定より先行して研究目標を達成した課題があるなど、実施計画は効率的に組まれていると推察される。なお、G 空間プラットフォームとの連携が、本研究成果の有効性にかかっており、連携方法のさらなる具体化に期待したい。

(コメント)

- 全体スケジュールは、前倒しのもの、予定通りのもので、予定より遅れたものはほぼ無く、実施計画は有効にまわっていると推察される。
- ごく一部に予定成果に達しない研究もあったが、ヒアリングから今後の対応が考えられているのが分かり、対応策はとられていると思われる。
- G 空間プラットフォームとの連携が、本研究成果の有効性にかかっているが、その連携も進めていることがヒアリングから分かった。ただし、さらなる連携方法の具体化が必要と考えられる。
- データベースに関して、目標性能を達成できる見込み。
- 課題「複数 G 空間データ統合」について、関連研究者との連携ができているため、目的に合わせた統合実験、評価が期待できる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予算が大幅に縮小される中、予定を前倒して成果を挙げることにより、当初計画どおりの目標の達成が見込まれており、効率的な計画である。

(コメント)

- 半数研究項目において研究計画予定以上の成果を挙げていたため、次年度の予算の大幅な縮小が計画されているが、政府の財政が厳しいことを勘案すると適切な判断であろう。
- 大幅に予算を縮小した効率的な計画である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

重点研究課題のシフトに合わせた体制であり、概ね適切であると思われる。一方、同時に進行しているG空間プラットフォームとの連携が要であり、ビジネスプロデューサーの活動をさらに強化する必要がある。

(コメント)

- ほぼ予定通りの成果を挙げている実施体制を引き継ぐので、おおむね適切であると思われるが、同時に進行しているG空間プラットフォーム整備との連携が要である。この連携にはビジネスプロデューサーの活動をさらに強化する必要がある。
- 重点研究課題のシフトに合わせた体制である。
- G空間プラットフォームとの連携については、連携全体を指揮する体制が望まれる。